

希望ある輝くまち を目指して



高山市長 **國島 芳明**

明けましておめでとうございます。
新しい年が市民の皆様にとって、光り輝き穏やかな年になりますことを心から祈念し、年頭にあたり謹んでごあいさつを申し上げます。

昨年を振り返りますと、記録的な大雨となった7月豪雨や農作物等に甚大な被害をもたらした9月の台風など、豪雨や暴風が猛威を振るった年であった反面、全国高等学校総合体育大会のスキー大会・アーチェリー大会や平和首長会議国内加盟都市会議総会、第20回米・食味分析鑑定コンクール国際大会など高山市を舞台にさまざまな催しが開かれ、多様な分野において、高山市をPRすることができた年でもありました。

また、高山駅東口駅前広場や国府児童館「なつめっこ」、久々野多目的センター「虹流館くぐの」、飛騨高山まちの体験交流館の完成など、皆様の安全安心と地域経済活性化の実現に向けた施設の供用を開始することができました。

昨年、3期目の市政をお預かりすることになった私の政治信条の一つは、市民の皆様のご生命・財産を守る「市民のための市長」として全力で市政運営にあたることです。これまでの8年間の取り組みを検証し、「希望ある輝くまち高山」の実現に向けてより一層邁進してまいります。

さて、本年は新天皇が即位され、新たな時代が幕を開けることとなります。この30年間を振り返りますと、市民にとって将来の礎となるさまざまな出来事がありました。平成元年にはワイドビューひだが導入、平成9年には安房峠道路が開通するなど多くの人々が行き交う基盤

が整備されました。平成14年には、全国和牛能力共進会で飛騨牛が肉質日本一の称号を手にし、全国ブランドの地位を確立。平成17年の合併を経て日本一大きな市となり、多様となった地域資源や地域特性を活かした個性あるまちづくりがはじまりました。平成27年には各地域にまちづくり協議会が組織され、市民の皆様と行政がそれぞれ役割分担を行う中で「協働」し、地域の特色を活かしたまちづくりを展開しています。また、平成28年には「飛騨匠の技・こころ―木とともに、今に引き継ぐ1300年」が日本遺産に認定されるとともに、「高山祭の屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録され、先人から受け継いだ財産や思いを皆様と共有し、絶えることなく次の世代に継いでいくことを改めて決意した次第です。

平成の時代はまさに、高山市の持つ宝が世界中から注目される中で、そこに住む私たちが住みやすいまちであり続けるため、市民の皆様と行政が協働を深化させた時代でした。私たちは今を生きる者として、これら先人が築き、大切に保存・継承してきた高山の宝や営みを次世代に引き継いでいく責務を担っています。これからはますます新しい時代の中で、確固たる飛騨高山ブランドを築き上げ、世界に誇れる希望ある輝くまちとなるため、市民の皆様と手を携えて心一つにして活力があり住みやすいまちを築いていきたいと願ってやみません。

市民の皆様のご笑顔が溢れるまちとなるよう、市民のための市長として全力で市政運営にあたります。市民の皆様におかれましても、市政進展により一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。年頭に当たってのごあいさつとさせていただきます。